吉原楊枝

京傳作

特別
へ13
3633
34

吉原揚枝叙

玉潭ハ撲腹ホ眼が有れ

羅漢の二階より見れ解ふハつの目有とい

ぶ小船ハ廊よ詰さる東屋かの業類が

四の眼ともあらん。堂内西二ッの三眼亀を

以て五街を見る。廓内の内

へ13
3633
34

昭和三十二年六月八日
宮川曼魚氏より贈

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天明八戊申春

笹葉鈴成

自序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世をすて世事ぶきらう書
すてゝ。懶まれなむ。一毫奮乃
かるひとなりとゝ

京ばし

たそんど述

吉原楊枝　山東京傳著

人うて悩むつきぱを欲るの二ッあり。
むゑ極なりと。ぱをと多と欲るを未嫁よ
川竹をつぎゝるぞく大きゝ吳なり。三姓
贅の投長ゆよりなる神の名有り。むゝ尚の
事いせいハ。拉鬱ふまんぢうの役をけ丁
花獨楽ゝ大門と傾城を画しゝ。悄然
おとゝ買とゝ。一ッ畠ゝ生ぞるものと知る

くるふハ五こハ二分で買ひ求めとなりひ。
江戸の豆腐の喰ひられぬ事をきゝぬ中川の
云ふ不あるべし。寛ょ表陸を鴻石とゝく。所
湯と黒鞍のひあるひよ生れ出るもの
あり。所代ハ相模ゑ求ゝ飯時をきゝせ革の
角りの要を炭くゝ小ゝなんと天性氣
ゞゝらくなる生れ付ゝ左りどの身代を
きゝひ。今年廿五の時うけて。柳橋の別荘よ若

おんきはて。三ヶの内のそゝふ磯りゝ屬よ飯
ゝゝとこんてハ。あいゝゝのゑゞせをきひ出。
流ゝとゝの竈馬の音を愛てハすゞきの
でゝゝゝゝひゝゝゝ。唯少よあそぶのゝ一年中
のゝゞてすれバ。磯石とよぶもむなり。世るる
の人ハ酒よ酔ゝゝ。吉ゝふゝ磯石ハ吉原
よ酔ゝゝ。呑まぬ酒をのむ。一日かの廓の
かゝりゞけ。淺草ゝゝ抱んの寺内を通り

まるあり岩しつくつまあ風雅のいろりの有
りくふ心をけくつんれば。垣の内ニ一トかの柳
をうえ。枝折門ニ置の家をうけ酒中花を
いふこ字を書こう。かの五柳先生をおもひ。
東籬菊(とうりきく)把悠然(はらくぜんとして)望南山(のぞむなんざんを)といふおもちろ
但一生花屋のかんだるなるべし。なつもせこ
かうこう物すきこ。山菴をよこをやうす
あんと垣のふうげつ多をこのせく内を
うかびひりふ廿八九の女ゆう白髪のこれ
でたちまれをし。はやうのあいう(東)ふろ
おもをものはあうのちとゆれるる小袖ニ
すの帯をこれのかうふ
ふくむすび。ろんのちふ
出くく多胴のさるの蛮をおもくいふやうす
色の青きあくく髪のものうすひ。ぷいるる
ぐんくふんせくもをれしやのあうとこる
姿。さしづめ縫物(ちん)て女ゆうこる婆(ばば)を猫とい

ひ行くさ物ずきとうとう角。向こうへくふ
ふくさ連。吉人ハ行よすぢめのぼるさのちわと
有るつ墨ちぶくさの小神よくぶちちんのうちの
ちゆうぷらんうかぶりのきあつきんよ。こいとしの豆
嵩。今一人ハ墨ちりめんのふ神よつまくんどの羽織
ようーハくーわんぐのきのよあくう結ふくさ髪。かる
ふくよちちをはまんぐ赤きせふ袖よ浴衣あう
まの角くうむくをつんせうけ。かるくあふ帯を

さげくーまふ。又とうとうくうくう公家城吉宴の小袖
よ抱ふぐ羽抱ふ。兄れいうちちあんのたちハちち
ぶりかぶりづきんのくくよくくのちち
つきのふねぐひをかぶりくう男赤かくと。
夫とくくくくづきんをちちく見いく宮乗
候文字墨ふ。抱そろひなきんく。姉よ
抱ちゆひとあいさんまれば。伊そ赤きんうぐう
つぐくいきみ男ぐくくとちのぐ。ちちも

酒中

りふいこての金白ざうなんでを先生の抱きう
時こてをかんぐて。豆ぢちめんうう婚うく出うけゆ
ぶりふい雪そうぞいくめうう日ようぐ稼く。抱く
がうさうむきの此姉ぐであいぐんといふちゆうう
ぐぶかふさげさおぺかふ豆の二ちんめぐ稼アイサ
きうひりのさ。うさうしを今あいちかうのかうう
ぐけさ先生ゲ下戸といふりんぐうう。うううしゲ
うぐりのいさいいうさうふとこ病うう紙袋[illegible]。

茅屋屋内袖のふさうよちと腐樹の鉢しぐ用
ふそうわき母そぐがん屋ぞうの月ハ口(かぞう
寺角うくおやまうゆを。かしうつうふ家の
ある母ふるあるいとうう今をゆしぐ。そう
さいいうゲお茶を元いうこ母いうんをうゆふよ
いいでもうまうくよおえのこうあゆう。是で
ふさうを去うけん母ま(ぐうこのりくよ稼くつう
ぎぐ。こ人さうし牧お戸明うてのう

られば強くいなをひきあてぞうがぶし
おくそうりゑ。横丈三尺ばかりの高めをと
いくつ。かのこんにちはぞうん。先生はまだ
来ないとつるれば出ずゝがゝらくる
ねまちわび待。のちのちまでさいを見をさるもの
又来るをまつ中しまつ。ニアぞんとまるのなな
せんしとあるをまんまるなをせべ
くらい業ぶ。そんぞ来るのうちと向のの

かぶと月のあるとこ。三三せの出るぞぶんる
ノウ行くそ来ちん。サウ三三せといへい角トうう
ねもくあるくくうちぞまてられるこのか
きっぷうをくのまれるをそきるかもで中ごう
うんくゆんなせくとかをへうう出りて渡せば宝ま
うりく。アノけいもを名ハうんぶぐうまの行へや
りうぞんちんやゆうまを三三かうん八。ちるせ
ねくよをいひるぐくう。中ど渡くうすくをそびく

ゑんでゑんく。扨きゃアゝ是是てゝも新しきの
氣ごろふ。さかゝるこゝの同きて志やアゝ有りめへ
志んぞうと云ふ病も有りがてへ。志めんゝゝんゞ
志やうん状をとむ母のよいく成くゝくゝ
てもう是しひ文句ハなしぶと二つよ引裂さ
てもあぶうのちゝと拭くいるまるゝの
さいちゝ。一トゝの門より志ゝぶき二つ三つ
志ゝく笑生と扨ゞゝ。立出りゝとゝるよ

年ハ三十四ゝと云へて手の有るさかり泥
みてたげ しく職有ゝく生けかゝぬ
風俗。世めぎ嵐の移まき小神よゝるき業
どんすの扨びを志わるゝ知く。コレハ宝永東
子。文字の表子。伊ゝく表子。扨ゝの作生今の
言ゝゝひゞ身ゝへゝく母ゝく同ゝさあ
中ありゝハ志ひせい賢の極秘伝と中
かゝ四ゝりと扨世ゝなゝれと世ふ業ふ

三人ハすぐめ第へ小石うつるごとく記をまうきれい孫石ハ母のゲ名つかるよのりけ先生仙事と云出を母と世の耳さくそ者くりるゑ。先生きゑ母めふくゐ。丈新恵の方後荘子の富言。横ゥ諧略。孫湖の孫さくと紙屋のあさりて。唱へハ遠こと商人のさくと恵いも傾城のさくどいつもこるゑを治るうをみてなぐ伝をよくをたくよあらび。貞母よ

あそくけいせいを湯すゑハ懐吉丁典を
さくへて我よ似よういふひとりかるへ
伝までとりいせいさくハ文字ふをみるも生れ
もせびゑ。りこくるゑ北の姫ふくゑ母やさくかな
のくあふ山里よ者れバ女所迷別よ寝情
かきさんもなゑ。うをさくもあく。
まをくゑ出くさくをもあり。ようをくゑ出くさ
まをくもあゑ。迷松門ゑつゑ作意よ傾城よ

まことに其沢山なるべき事なれども
と出きに入梅のきこゆ。ちまたにさくはなくよりはれら
るに入海をまことふちのうちとあるごとくお
ろかまれなれべきことあてまとと有りとおよ
も又あやふしむつかしけれのせんぐろまし
けれせいの虚実を論ずるもこゝかくいで
半ばすれば商賣者なるべきはなるべきなり
さるのごとく商賣人の方へ二つ分ハ法のごとく

せるもあくかるまじ。その商人を世渡さえ
くとなりけるきあくもあまどそれハむりで
小刺で正じんの小つ魚切りくはふ刺とし
かるべし。頂戴のまことをうんせそ。あちらも
それだけのまことをうんせるバ。その情をうる
事あるべし。又新造をあるべく。世渡持と
笑をし茶屋の二階ぐげいしゆとこ踊バ
し又ハ女らの方よりう金銀を出して呼びて

を我色男なり此里の通ことと知へくるもあれ
どそれをとゝのゝ事とゝひまゝんとゝあへうるに
是又いうよりけの有る事し。なるほいの樣久
らゝとこの素法師江戸の素良義紀文を
ちゝめたゝその身をうちつゝ下給の純なゝみむ
すこの人ゝ毛おりうん。頓城買のたんゝ事
のたゝるゝ事ゝくゝ物りゝろきゝちけのある
りの田ゝとうゝくゝ情をりつゝぱゝと

すゝ廓なれバ客も女郎も情ふかくゝを
有ゝくきりのし。君い今酌取あゝ時分
とゝのゝる一句の情ハまゝふありかゝきゝ事し
女郎の客をあいとゝるふゝ限有りまゝ初
金ゝあハ男ゝりゝと揚ゝるゝよりゝなり愛情
ゝるゝなゝバ。かゝく別ゝゝめかゝゝ事ゝの
ゝゝし物をあゝねバ男振りのゝゝき方ゝ利
をゝるゝしゝゝゝの物ゝゝふゝくゝゝあんゝさの

こゝろ[illegible]なるものなれば
初命より一生の間みゝ。ぞぶんの客をざん
おとこがゝくそのあもう繪〳〵ぞうを
今一家うんで見てゝ[illegible]友うつとあて
かゝをあすも至をなぞゝわゝたいの世
がゝり拙まゝのおが門さあ人へぞのもうい
男ゞさぞよびさうふなぞゝなぞゝれる
ゝこうひいゝゝ嬉んで見てゝなり。一生の

きゝのおまゝゝ名をゆうゝハ性てをのゝ
わゝくゝよびよゆう。それよりなぞゝこゝ成りて
一月が程も有ゝゝ月る見ようハその客
のきゝゆうゝ色にわるゝなり此客さゝ
ゆりゝろくもなゝ性のゝこゝもなれバ男ハ
よいが物りゝろくゝ無ひあなりゝ絵ひあき
がゝふるうひ者も有りさゝゆうも物も
ゝろれバいゝゝ中が去ゝゝ来ゝ

ゆゑ、あれこれ考へ、又ハ考へこゞ拵へこゞ育てゝ
切まく仕ぞふ事になるものし。和尚ハ
その考の通りてよわるし、まかりとよわれ
てもしかゝる寝ぶりなれハ。是かぎまでゝ
すゝ去ん寝のなき考へし。あさゝめられ
よなるものし。此考いよく寝ぶりもあまハ
寝ぶく〻かりをわま。ゝゝゝや表もゆも無ひ
中のゝぞひ。一日おいあ〻ぬ〻極さいぐたらう

ゆく〻あふてゝ考まつて。あるゝバなす成
ぎまつ〻ぞひ。毋やさゝの考すゝ中
て親兄弟ゝ小合もおゝも独〻公成
うかゝぬ事よなるし。まゝ〻ゝ金つくゝ
りし此考通ゝて考げく〻あ〻ハつい
無ゝ法考ゝ毋ゝいろく〻ぶうゝてゝよぐ
ゝゝ法ゝまゝぬゝけよなるあげ代ゝ寺屋て
二階をとめゝま中の町〻出く〻あ〻ぐゝ考

長くこまるべきものとあいまぬやうなり。
ちゝはゝ死ぬ氣ちがひとなれども。夫ゝ二タ月
ゝ。三月ゝ。半年ゝ。そだ。ぎるものの八月
ようゝ。そのやうなるものの。
又まんぢうてもなき男が出来れば夫ゝよ
ぶれ。ついまゝきうよなるものゝ。ばか
男のうへもよく。なるべく世の母ちゝはゝ人ゝ
叶ふもなくなれのまゝをそだ

いろ〳〵の事もうれしく女房ゝ成
ゝ氣よなり。酒をやめろの遊人であるものの
なぐ〳〵ねんをするやうなるものなり
和まり〳〵人ゝ人なりまゝかゝ。ひろまても
ゝ人ゝなれば。ゝいふやうなるゝ
その者の取ぐ。年明ゝまゝよ成りて
ひげなき人の取ぐ。めり
やを乗ゝ。ちの文句よ。ちゝはゝ

よそうもあんなるやうに事がないをんを
うくうあるりまくあんといふりのハ男ぶりでも
きしやうでもあるとてもかさてをとを金つくで
もいろあるのなれハかれられるもつき出
されくことをうるあんつくことをれハさるもの
世ぞたらもたてぬし又世くのこのあるよ
男と成たとの大きなるとうち有り金の有
其男の男もつとめといふ又宝たれいやし

殘のあるきゝ男なる地をもまぶといふ又宝有
是ハ地とし殘ハ世くも男ふれくこと地をを
するとハ公の用ふ別有れハ地ををあのとて
男のをもちなるなくハ男ふれるハ地をの証
ふなくハ公其ハ男をせきハ地をハ殘
をれぬやうをうけハ公まもふくハいふぬ
物しかくだりつくて家を多をを事まく
有り。あまりをいぶ世くと女房ふくて

ふうくわれてとうろう(まつくはのふりの也
ぶ毎りうくのつく事うとこの事ふ為くのりこと
切まさとべし客を世くわどの事をべ又四方
うらせくうとの友。そうくせくるもかまり有り
ととうまんよわれてねまバ。わまろと形んて
も鈴へ公いうつさぬりの也。地ろてよこんうく
といふうの有り。しすうり七りまくく男八母りそふ
ろ月ら女帝ハ二ろいのまんべ上出くえあうす

毎夜かくれどもしてながいのこんをうべうハつよ
格子をあくひよ出るうろいりのふうくあく
虫うろ事をかけらうるの有り。あち後ん
事と一ゆうよいく。ろんの名事と。義理乃
ろと事と歌の名事と三ツ有ん也。又なすこの
事のうけなど事毎うて二ろいをとあくまうう
よ女帝中の町出くあふ事有り是ハあ
だうてまなく。あ毎くせるよなりしあくん

ぎるまくさふする事もあるべ。是ハ門不
ゆくゑんのりふすべし。ものもさゑくの別ち
有り。こゝ毎うりんよりりく業有り。一通りあぐさ
ふりく業有り。如命よりれてりく業有り
ふるまるまれてりく業有り。たるまれてり
業有り。如ゝよれられよりり業有り。こゝ毎うりん
よりり業ハ色有る如命よりちり身の如まるを
ふるびし。実まれるあいるまなく。ふるを

ものをつまくあるりくを屋めるりをかく
まれゝんくとまるまるをたびこゝ毎うりんよ
りりれてむるりよ見けをさるりかまんまくり
るくなるめるまびくするをめる。一毎りるく
さまふりく業ハ市のこ如命の虚空まるかく
りまを一月よみ六変まくそれ最さ人如と
るるくあをべまびを如ひかるるまるして
円のまるびまるまるくせべ。如命の用まをまり

ふ笠て中ゝあるゝかぶりをせぬものなり
如斯ゝ成れくれ〳〵ゝ書むすべそこゝ客と共に
ゝゝの義代の夜ハかまを部して寝やみ世話を
うけ何ゝくゝくなるゝむりる時もねつけを
門の志ゝびをコロ〳〵。毎夜来りもそのゝ
と切まてハさんつゝくとはつてこもせぬものし
果〳〵ハ業屋なるゝくもあそこなりぬ客と
志ゝの屋し。くゝとふゝれて行〳〵ゝ来ハ中の所

又ハ如ゝ屋の内ふなどゝふちゝきゝかゝりと
有りそゝりくゝを呼して歩行あまりゝ如斯と
ゝゝなりのしたくふゝれて行〳〵ゝ来ハあゝ方
の如斯ハそれゝと如斯ゝ行くなれど二ゝい
ゝゝ如斯くなりくゝこくゝもたれさんあを
こかゝもなれさんハといゝらゝ如斯ゝ行くゝ
なりゝゝれらまてゝ如くゝ来ハゝゝぬゝれる毎門
なりゝ。何屋のゝれをかゝゝゝゝ又毎ゝゝ

てをきます。又みくもりてハ。是も世りろくなひと
なりこと かくもりの世。是ハこうぬれ世へりちりく
わまろ女房ぐ有りさうるりめとちろ世へし
又客よある知りと。ゴけちうと二ゑいろ有り
たりの多の拵ゑ。ごよあきづの有るのハタア
ちうう 亀情(きしやう)を半(ん)さ女房ぐこの。ゆりまみど
踊ゑ盆をうけあわせ。ちりの世ゑをうまう
のうちりけを見ゑ世。竹村のちりれハ

金ぐすまぬとたぐさめぬのとりよとちろこちまへ
よいゑ。ある知りそうくきらふ事ぐ又ゑけ知り
とりハ客ゑ地ゑちりるうこあるひハ切ゑ汁キ
まぐうくさづくをいよされバ。完ちりよハ盛り
安くうゑ事ちりゑなりてこ新造買ゑて
世ゑ殺りちくゑをまろるぶおいろの新造
ハずいぶん小ゑこうあく。おまり祝ゑく世イ
のを見ゑくあぎふぐう。ゑてハ新造の

ぶきげんなりあるゆゑ。又ハ夜ふけなずる坐
志きのきゝくがゆへのさかつきぬるをかんにん者る
財るもじだもとひなく様くいくバ。いくらてこ
まする事あり。ましく あまるきんさうハ委
父の母御がうん丈く あまるさするめのこ又
だんそうなれハ。母御まかりて八万事志
みきゝのなれハ。まげだんそうよあり
て、いるまつ くるあて招く×しだんそう

さ又志そうちすれバ。二くいぐあかつきも。中の丁で
あそびも万事しほし。されバ川ようへすと
いふきそくも胡まざくあぶらり。又ハ昼代の嘉
一堂の客さまおびど育らく。いろんて志やび
まぎれめあふめのこ。いろるも奈ずなかく
なるまでときぬ事し。むそのおひありき家
招るし濱この深き八人情こし。父の母御の
堂女が出ちく。母り手新屋のむかふなりけるも

まんーゲかぬ書るるふびきんちの物とそのべ下
鉄ゆるもるくゆりり。日々。時々。血々。血さけ
血さきそう。牛生きそうのかんそ。ゆりりの
かくり切り。ゆび切り。はめをとるのきのくの
ゆ弁よぬを人作るといふ事有り。是ハ生の
世帝の物をぬすむといふあるを作る作る
なり。いつる事有ることハ作るてくだを
かくせ後といふ事也。いふも書るひなきさ

事しハ外よりあるれ鉄ゆあ生ものるる書
生のする事し。まべて鉄ゆといふものいぶれぬ
ゆやなる後ゆをるゆ男よ作くゆれをるる事
さあの道見し。ぞりこんゆれるる示ハ書るち
ふくまるるとの也。鉄ゆふくるるびをを
ちをハ小口作ゆ也。をあてふなるるるり
なすぶされバ書るの鉄ゆといふ鉄ゆ有る事
なり。ゆびを切一切の道をのぶるのりる世よ

有りてうるはしく和えし。さてく男も女房も
ひとしなみなれど。さんくよりあまたとつれ世うちに
学のしるべくあり。さんふわれくかくを
いろくのらうそうて。かんどんの物りろうをけて
ものまねをする。あるくちわうざいつき合もかまつた
学ものひもなきんふなるものも也。むすめが家業を
ゆるいろくのおんどあるもゆりうそやう
をしせること。家がハ男と女房とのらくわふまれ

ハかきるまれし。さてうさかしこ時きに門上家と
女房とさしこ向ひふく。金紙をとうあつうハ
いろくく安き事也。堂しき物の女房の身の
物のぐまふし安きハ中くらゐの女房に有之
私ものくまうう二まひ目あうまくく
門ものく。たすのの女房とうるあいうれて
事と付ケ。やりてうく祝ひまでも也を
付ケ。男やみくも物ことよとうあつうよ

扇下あるゝも出来ぬ友。いろ〳〵ひするもいと
ゆく〳〵多和と。又家知り〳〵男女なき女房ハ
ちゞめ一年ほどの内ハ。内不の世話なれハ。
又新まゝふなゝず。とゝ[illegible]義ハ女房の手ま
もかゝ〇稼ハなゝぬ也。色〳〵ひも母のづゝ[illegible]
つまよせ稼べなゝバさきれハ。中〳〵ものの不ハ百ヶ
志すきりの也。又二まい月ハ女房のうるさ
ハ。何方ハ二階ともも有り乗し。今ときハ

女房買ハ人切りがたまゝ[illegible]
仕ちをゝ〳〵とゝさゝと通り者といふべし。
ゆゝ順城ハなゝさゝふ買ふりの女ハ浮き[illegible]
論也。そ時〳〵と毎りゝく遊ふ[illegible]を通良。
傾場ゝ志門を[illegible]さゝ[illegible]
[illegible]ハ遊ひとゝふ[illegible]
なゝし也なゝし又あゝ[illegible]
ゝふゝ[illegible]

ものにいきすきこうゑあまり出来ること
仕ることゆゑ、ばくろうゑ、新のあくらしきうちゞ
物りつゝ、おまりう新ゝ来られて来てハクロて
ゑなをも出来ぬものゝ世又如来のさゝをを
ゆゝうゑして金をとうゑ。商賣なれハゆゝを
屋敷を金をとゝめて新里へゆく。国地
あらひハ行ことのかゝるなどをかゝる等事
ものゝうしてゑうゑものなども事を付て

ゑうゑ者ゑの中のものも物のうゑめつとうら
しくも物のうゑれゝ。ゑゝハ地獄のすゝ事よ
ゑゝく如来のさゝゑゝあゝゑゝあゝゑ笑のさゝある
金銀を事ひすて人世も物ゝまぬゆゝ不
なゝあすの事くゝゑゝをゝぬハゝゑきな
ゆゝうのれゝ。けハ世の身のうゑゝあゝし
きゝゑゝゆゝくゝいゝゑゝ。ぎゝゝなゝみ あゝよ
ハ一合もすゝるゝがまゝうのゝいせいなゝ。さ

まだけいせい買ハ意外に儲なんと云く笑を
ふつく書く事あるさうぞ。何をかいてのぶる
事あらん。むかしきさのゆえ。それゝ〳〵むか
しき事よ。今を出して遊びよりうを
いひさつけといふ人ふ偏まべうぞ。そのう
まうけいせいのうぬを云ぬなるべし
けれ共すいつまゝのさまく八ようぞ
三ッかうんのうくよ申ん子わんつさせもんバ

そのうちをもうくんうぞ。嘘ついてとりよ
いふ玉をうもれるものと云あしけまぶ
咽のゆよ男のおうう強そんハ己ゞ知てきる
ちゞ。そうぞ門のゆよ。かの生まれよ
むひ中ゝうを。我生んゆ那ようう姫の好そて
生生の通侯を男く。傾城買の悪名を
きうあん。そも生ハいるる人なれば
かく青様よううきを。ふもんしれハ

かの先生さもあらんをいと親ゆかしく清ふ
たんよはうを我身のうへをかうせやせじ
家ふ世じといへるものゝ。物柳ゝうん抽んの
まりうまの糸ゝて。口中を清ゝうふ
なすの佛臭し。その墨雑く有るとい元
その中よ吉京初校と号しぬさの長キ
一種有り。ゝゝけいせいの中じ第ふ住
おそそ。世界のあるをちゝ。名稿者ゝ

蓋とみゞれてハ通考のかゝろよりつて
その人情をさゞう知ゝ我とそ。すゝゝのの
吉京初校の精なり。今ゝそのあるを
こんせやべし。ゝ。中ちまち。白ゝんぞふ向ふ
菊の地紋掛りゝゝふおしやゝをちやし
紙のゝゝ女をちやし。世抽ゝうゝ老
蓋と化し。ゝうゝ光ゝをゝるのち。ゝ蓋ハ
世法九ゞ果敢を世ゝゝれゝう時のあも

かゝゆゝとゝゝぐゝゝ。清水ゆせゝゝる人ゝ式
ゆゝじゝゝ月ゝゝゝを付ゝゆゝゝゝといゝゝも
かゝゝゝ手ゝゝゝ。白鷺の毛ゝハ姫さのゆゝゝ
ゝゝゝゝ今ゝゝゆゝじゝゝ菊のゝんゝゝハ
ゝゝゆゝなゝゝゝ。紙のゝゝゝゝゝゝゝゝゝハ
赤き紙のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かのいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ柳ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ
三人の通ゝゝゝかの世ゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝかの芳ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
庭のゝゝゝなゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ハゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
楊枝有り。扨ハゝゝ楊枝の精ゝゝゝゝゝゝ

ものがたり。遊行柳の謡曲は柳の精知らず。佛果を得。又祇園女御の浄瑠璃みな平家の妻の物がたりとなれしは又草子かるしだてなり。今柳をもつて作りたる楊枝の精見あらは物ぐるはしきは是を捨てへ世ふ世ふしがれなどいふ御もきき事ふとあるなど行もせよ山ゆしのあるは青樓の作道をきわめしを有りとし

とおもふ。強ひてはいとてどいてうまるか。ものふるゆゑしの古をを折らばしてそのまゝふ折る時へかるべき怪有りと。世ふ云伝へ侍るなり。さる事よなん。

吉原ゆゑ

大尾

来春出版乃小冊外題左ノ如シ

入御覧ヲ

青樓居續日記　全　近刻

青樓遊君　ゆふむ石　全　近刻

自跋

漢ニ花ニ有リ梯ナキ一日ヲ

三タビ起ヲキ三ヒ眠ネムル号カウメ曰ハク

人ニ梯ト焉ヲ蓋ハシメテ齒ヤウジ木ヲ

以テ梯ラ所トコロヲ製セイスル也カルカユヘニ故

雖(イヘトモ)二非(ヒニ)ー情(シヤウノ)齒(ヤウ)ー木(シレト)ー有(ル)

精(セイ)レ乎(カ)ノ廷(マノアタリ)為(ナシテ)二女(ジヨ)ー婦(ー)

雲(ウン)ー談(ダン)ノ一而(メ)授(サヅク)二其(ノ)悟(ゴ)ー

道(タウラ)於(ニ)通(ウ)ー客(カタ)ノ一奇(キナル)ー哉(カナ)

怪(クワイナル)ー哉(カナ)ノ乎(レ)時(トキニ)正(ー)月

初(バツ)ー紋(モン)ー日(ヒ)ノ使(シテ)二下(ミ)三(サミ)ー弦(セン)ー

掌(バンノ)雛(スウ)ー鼓(ギヲ)一呵(カセ)上(レ)毫(フデヲ)ノ山(ー)

東(ー)京(ー)傳(ー)書(シヨ)一於(ニ)雞(ケイ)ー

舌(ゼツ)樓(ロウ)ー上(シヤウニ)一

汐干(しほひ)のつぢ　三十六の貝を生字かしきて箱の二再彩を招

野夫(やぶ)かくし足　藪医の穴をさがし出て老寿の伝を考へる故也

繪師(えし)安部(あべ)あらそ　安部二柳花生うつし彩の再彩を招

傾城けい　当時名ある遊君の評判に自筆をあぐる

うづら衣　人情物語りあき事をあつめたいろいの使りとす

吉原楊枝　けい世の買の二伴極秘伝をあらた

四方(よも)めあり　四方赤良先生のかる文集といふい狂歌の河内の国ようとなる本

蟹(えび)杖(ぬうしゃく)糠袋　女郎の扱りあき事同ようあうなり

狂歌世六(せろく)仙　狂哥人の像係を画く

昨夜(さくや)の古(くぢ)　かい客の古れ本山東京傳著

みやい
いとり19